

赤井川村農業の概要



北海道赤井川村

目次

1. 赤井川村の地勢
2. 赤井川村の人口と産業構造
3. 赤井川村の財政
4. 赤井川村の生活
5. 農業の現状
6. **農業戦略プロジェクトと主要施策の方向性**
7. 赤井川村農業の特徴
8. 新規就農者の受入
9. 2022年度農業振興対策事業について

1. 赤井川村の地勢



○位置

北海道の南西部(積丹半島の付け根)に位置し、札幌市、小樽市、余市町など、2市4町と隣接しています。

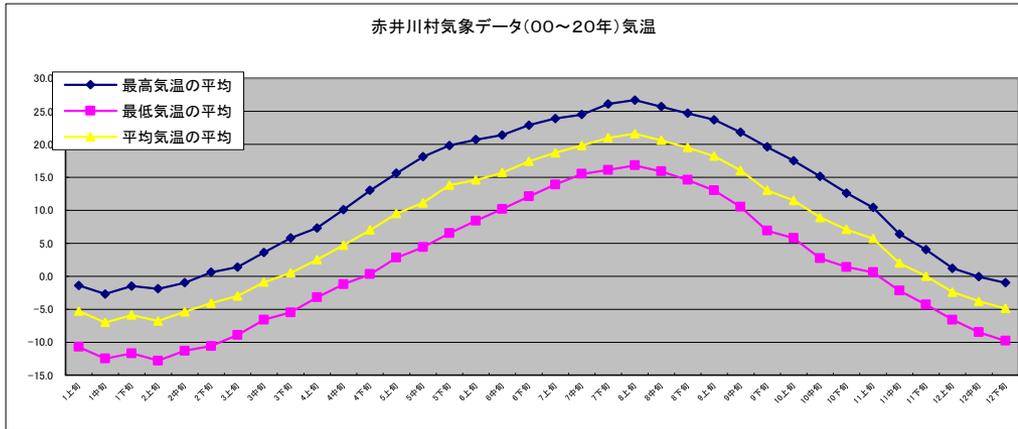
〔面積280.09km² うち87%が山林〕



○地域特性

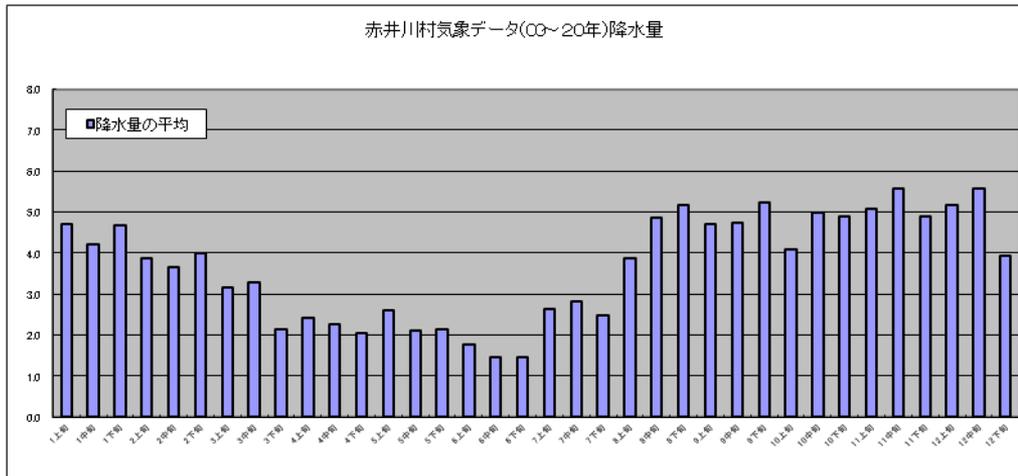
四方を山に囲まれた、「カルデラ盆地」という独特な地形から、昼夜の気温差が非常に大きく、農作物のおいしさにつながっています。

1. 赤井川村の地勢



○気象(気温)

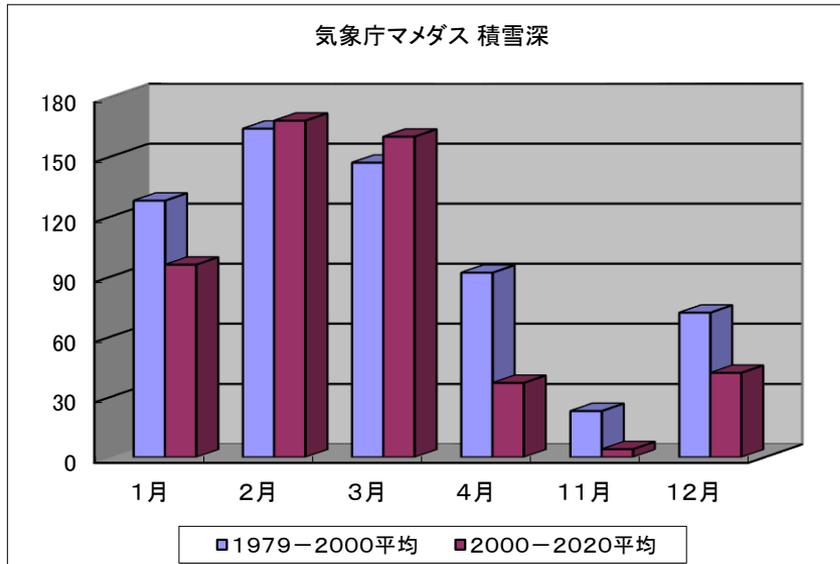
高台盆地の特有の気候により、夏には最高気温が30℃を超える半面、冬には最低気温が-20℃以下まで低下します。このような気候から、早霜・晩霜に悩まされるという特徴があります。



○気象(降水量)

降水量は、5月下旬～7月にかけて極端に減少する傾向があります。

1. 赤井川村の地勢



○気象(積雪)

道内でも有数の豪雪地として知られ、春の農作業は、例年4月下旬からスタートします。

マメダス最高積雪深

2000年～2020.3月

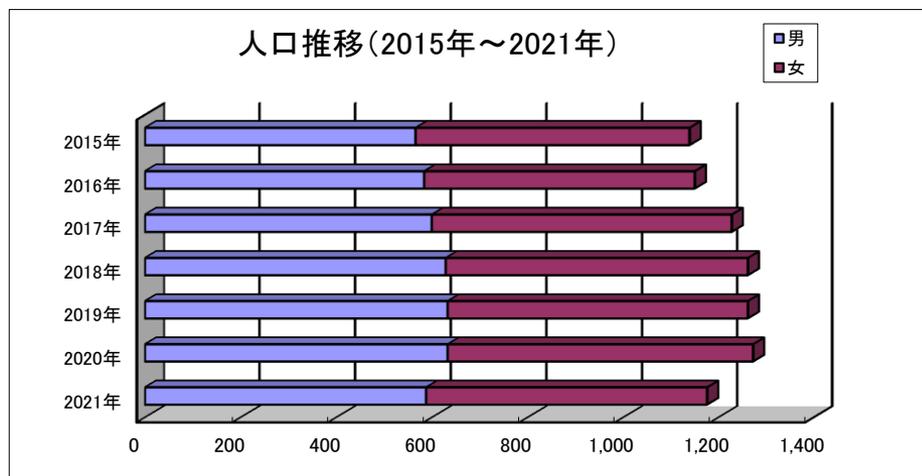
230cm (2015.3.12)

227cm (2006.2.10)

222cm (2005.3.13)



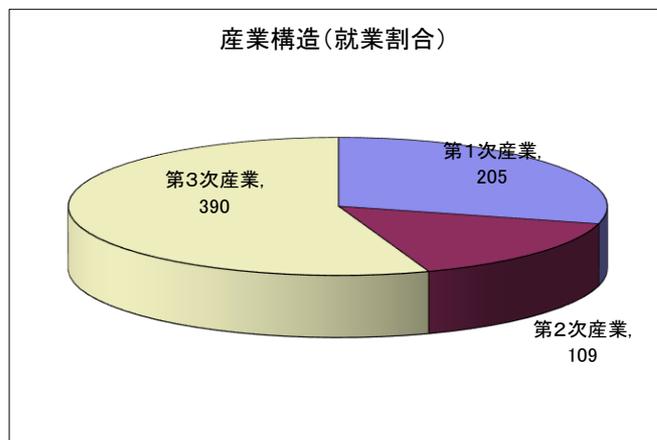
2. 赤井川村の人口推移と産業構造



○人口推移

過去10年間では、
2017年を境に年々
増加傾向にあったが、
5年ぶりに減少した。

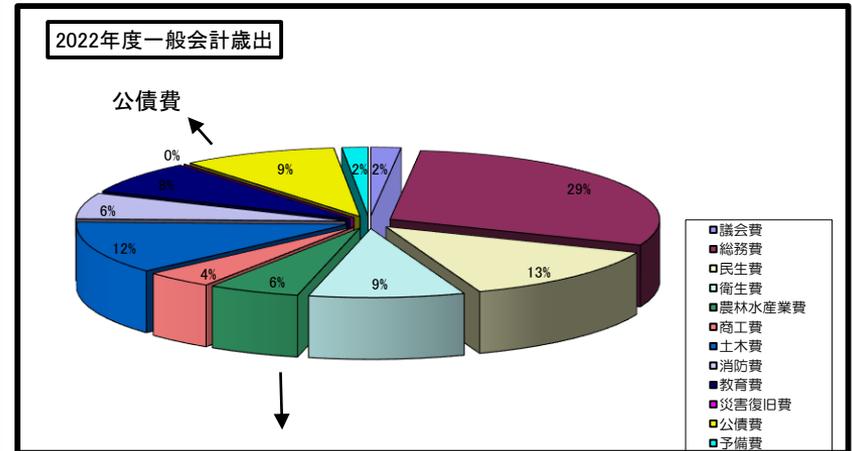
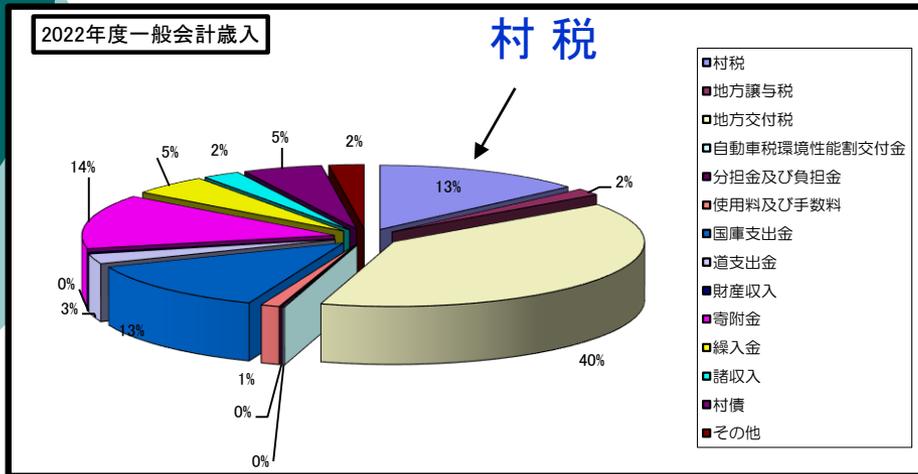
〔高齢化率31.0%〕



○産業構造

第1次産業のうち、
94%は農業、6%は
林業となっています。

3. 赤井川村の財政



農林水産業費

(144,358千円)

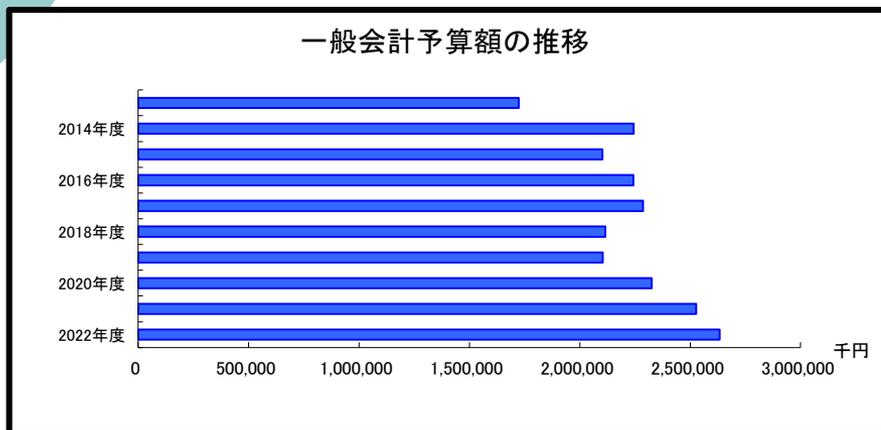
■ 2022年度一般会計予算(当初) ■

26億3,300万円 前年度当初予算比 +1億600万円

[農林水産業費=予算比5%]

4特別会計を含めた予算総額 約29億円

3. 赤井川村の財政



○一般会計予算推移

過去10年間では、2022年度予算 26億3,300万円が最も大きく、逆に、平成24年度予算が最も少なくなっています。

○主な事業内容

<2014年度>

- ・道の駅「あかがわ」整備
- ・公営住宅整備 開始～

<2022年度>

- ・バス停標識更新業務
- ・子育て世帯臨時特別支援事業
- ・小中学校備品購入事業

4. 赤井川村の生活

1. 住宅

□ 賃貸住宅

持ち家以外の方は村が管理している「村営住宅」「村有住宅」に入居しています。「村営住宅」は前年所得に応じて毎月の家賃が毎年設定されますが、「村有住宅」の家賃は定額です。

民間住宅は、2017年に1棟6戸、2棟24戸が整備されています。

■ 村営住宅等の相談窓口 建設課建築係まで

□ 住宅新築

土地地目が「宅地」の場合は、建築に際して特に問題はありませんが、「農地」の場合は、「農地法」「農業振興地域の整備に関する法律」などの手続を土地売買や建築着工前に事前に経る必要があります。また、「山林」の場合も伐採届や諸計画の手続が必要です。

また、都市部と違い農村で生活する場合は、水道・下水道、電気の供給区域や通信環境、冬期間の除雪路線区域の事前確認のうえ、建築申請等の手続が必要です。

※事前の確認なしに住宅などを建築した場合、余計な費用がかかるかもしれません。

4. 赤井川村の生活

□ 赤井川村の独自支援事業

村では「移住・定住支援事業」として、10年以上居住する方へ、期間限定で300万円／戸の住宅建設資金を支援しています。

詳しくは、別冊資料をご参照願います。

4. 赤井川村の生活

2. 日常生活

□ 交通手段

むらバスは1日4便(土日祝3便)がJR余市駅方面に発着しています。午前2便と午後2便です。

この他タクシーは1社1台営業しています。

バスの便数は少ないため、必然的に住民の交通手段は「自家用車」が主となっています。

■ 自家用車の場合、余市町まで20分

小樽市まで40分

倶知安町まで40分

札幌市(都心)まで80分

なお、高速自動車道は2018年12月に余市町まで延伸(後志道)され、札幌市までは更に便利になりました。

■ JRの最寄り駅は余市駅または小樽駅です。



4. 赤井川村の生活

□ 買い物

村にはコンビニエンスストアが1店舗と個人商店が1店舗です。

そこで補えない商品(食料品・衣料品)などは、余市町、小樽市、倶知安町などのスーパーマーケットや大型店で購入する人が多いです。



□ 医療

村には内科の診療所(無床)が1施設のみです。

そのため多くの住民は余市町や小樽市、倶知安町の総合病院や専門科病院に通っています。



4. 赤井川村の生活

□ 教育施設等

村には小学校2校、中学校1校、へき地保育所が1ヶ所あります。なお、給食費やへき地保育所の保育料、中学生までの医療費は村負担で保護者の負担はありません。

高等学校は村にはなく、中学卒業後多くの生徒は余市町や小樽市内の高等学校に通っています。高等学校に就学する生徒1人当たり月額1万円を助成します。(1人につき3年間)

村が管理するスポーツ・レクリエーション施設は、体育館、プール、パークゴルフ場、サッカー場、公園施設があります。



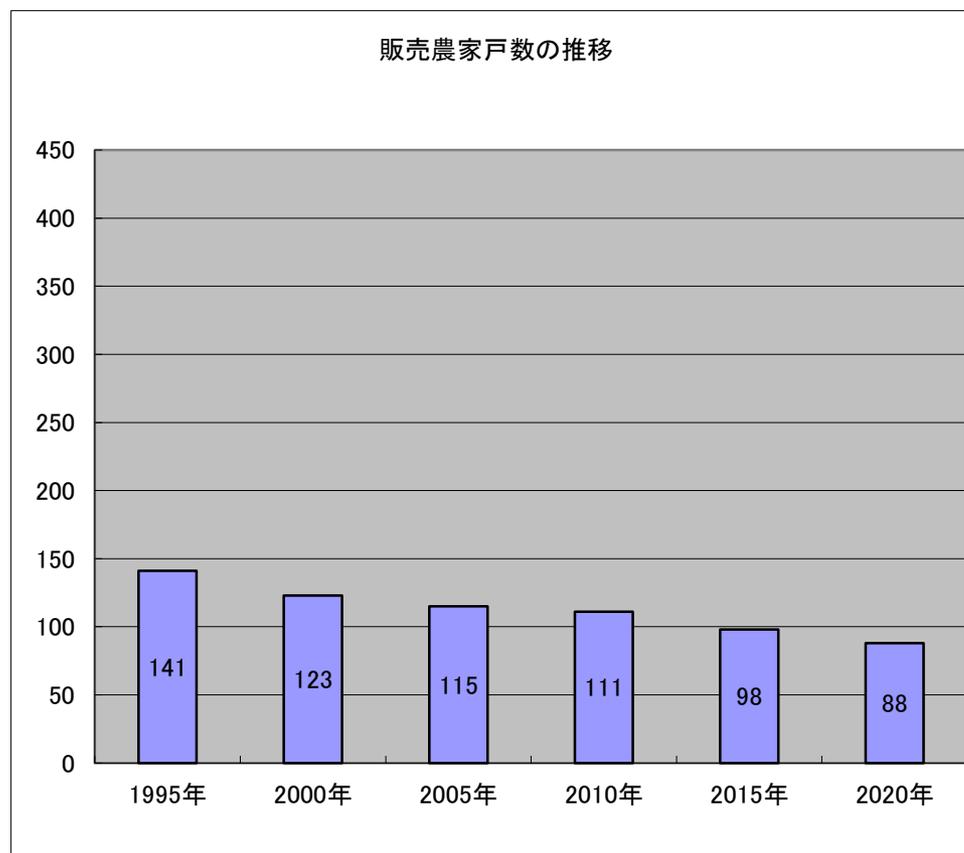
5. 農業の現状

○販売農家戸数

1990年以降減少しています。販売農家戸数は、2015年と比較し、2020年では10戸減少しています。

○農業者平均年齢

農業従事者平均年齢は、59.3歳（2020農林業センサス）となっています。

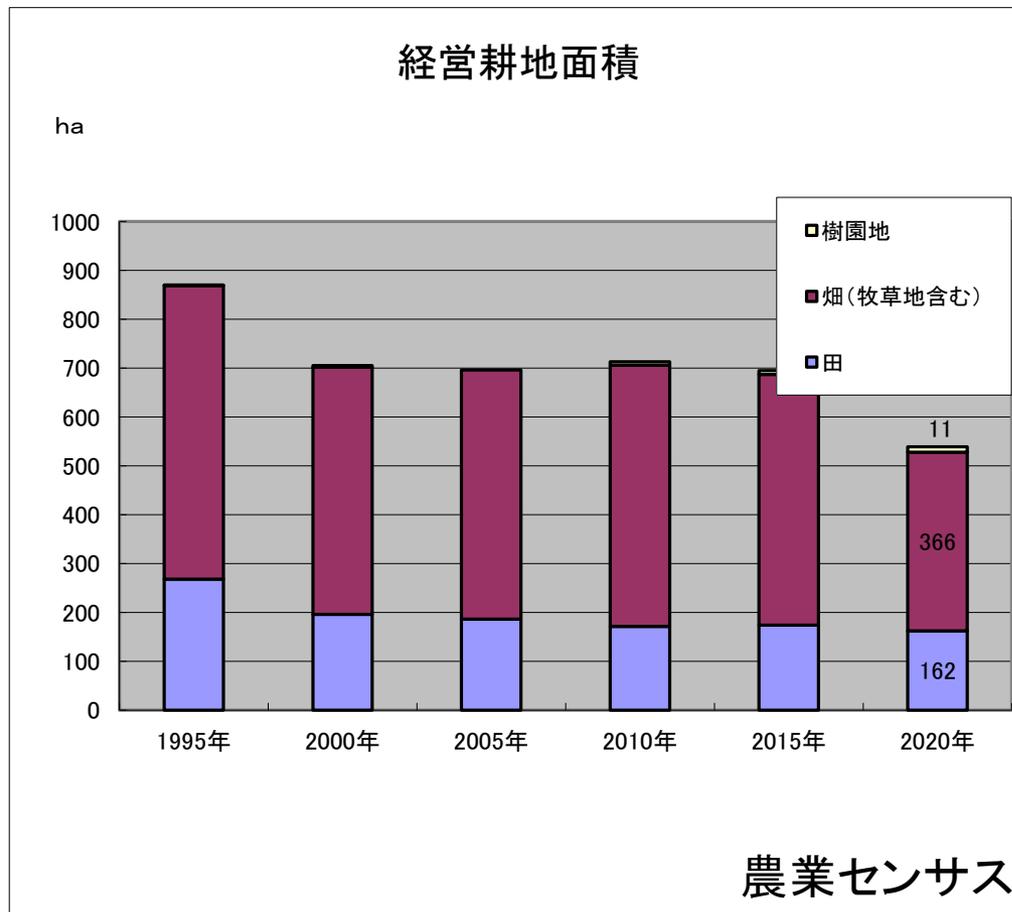


農業センサス

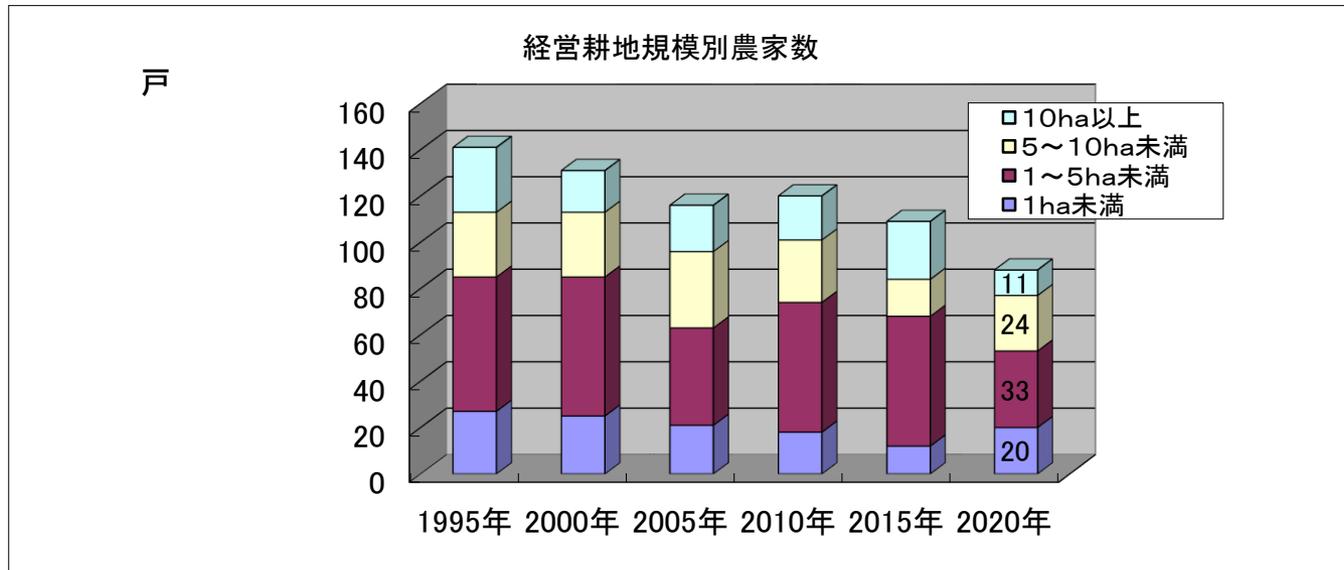
5. 農業の現状

○経営耕地面積

水稻の生産調整対策や施設栽培への転換による集約化、更には農業者の高齢化が要因となり、年々減少しています



5. 農業の現状



農業センサス

○経営耕地規模別農家戸数

- ・1戸当たり平均耕地面積 6.13ha(2020農林業センサス)

水稲、畑作をはじめ、施設栽培を中心とした集約型農業が展開され、畑作ではブロッコリー、施設栽培ではトルコギキョウが振興作物として栽培されています

5. 農業の現状

2021年産 主要農作物の作付面積と収穫量【畑作・水稲】



5. 農業の現状

2021年産 主要農作物の作付面積と収穫量【施設】



花き 0.3ha
生産量58千本

5. 農業の現状

農林水産統計(単位 千万円)

○農業粗生産額

近年は、耕種、畜産合わせて10億円程の粗生産額で推移しています。

区分		2017年	2018年	2019年	2020年
耕種	米	14	15	16	14
	麦類	-	-	-	-
	雑穀・豆類	1	1	1	-
	いも類	2	3	2	3
	野菜	37	39	50	59
	果実	1	1	2	2
	花き	X	X	X	X
	工芸作物	-	-	-	-
	その他	X	X	X	X
	小計	58	60	72	78
畜産	肉用牛	2	2	4	3
	乳用牛	9	9	9	9
	豚	X	X	X	X
	その他	X	X	X	X
	小計	12	12	36	38
計	69	71	108	118	

6. 農業戦略プロジェクトと主要施策の方向性

戦略プロジェクト

第4期赤井川村総合計画基本構想(2016～2025)

◆元気農業の村づくり構想◆

赤井川村の基幹産業であり、村づくりの中心である農業の維持と新たな展開をリードする施策に関し重点的な推進を図る

◆全村交流拠点の村づくり構想◆

地域経済活性化、雇用・交流人口の増加を目指し、農業と観光・リゾートの振興により全村が交流拠点となる施策を重点的に推進。

6. 農業戦略プロジェクトと主要施策の方向性

主要施策の方向性

- 農業生産基盤の充実(農業用水、圃場整備、遊休農地対策)
- 産地づくり対策の推進(栽培技術対策、新規作物、PR活動)
- 食の安全・安心と環境に配慮した農業の展開
- 農業経営の安定化の促進(各種制度支援、農業振興センター)
- 販売戦略の展開と生産組織の活性化(新規販路・拡大)
- 後継者・新規就農者対策の推進(育成・確保の取り組み)

7. 赤井川村農業の特徴

1. 生産基盤の整備による足腰の強い農業の展開

◆畑地かんがい用水

農業用水の安定供給



2001年に完成した「落合ダム」から、511haの農地(受益戸数115戸)へかんがい用水をパイプラインで供給し、農作物の高品質化や収量安定につながっています。



○赤井川村の畑地かんがい

事業名：国営かんがい排水事業北後志地区

道営畑地帯総合整備事業（担い手育成型）

赤井川地区

地域営農の維持・発展

<地域営農への波及効果>

- ・農業用水確保の安心感
- ・用水確保による計画的な営農展開
- ・かん水作業省力化による労働力軽減
- ・収量、品質の向上並びに安定出荷
- ・ビニールハウスを導入した長期出荷体制の確立



かぼちゃへのかん水風景

7. 赤井川村農業の特徴

3. 農業と観光業との連携による新しい農業経営の展開

①あかがわ産農作物の販売・PR



◆道の駅直売所

2015年から道の駅あかがわ農産物直売所に村内生産者34戸による共同直売所を開設

(営業期間 5月～10月)

観光客に対する産地あかがわ村をまるごとPRする取り組みが進められています。

7. 赤井川村農業の特徴

3. 農業と観光業との連携による新しい農業経営の展開

②メープル街道393もみじ祭り



◆秋の味覚を味わおう！

国道393号(通称メープル街道393)が秋の深まりと共に多くの人を訪れる10月上旬に秋の紅葉時期に合わせて開催されています。【開催時期:今年度は8月下旬～10月上旬まで3回開催予定】

◆農産物直売コーナー

新鮮な秋の農産物や後志近隣の山海の特産品を揃えて、多くの人ドライブの途中に立ち寄り、食事や買い物をしていきます。

7. 赤井川村農業の特徴

3. 農業と観光業との連携による新しい農業経営の展開

③消費者との交流推進



村内の農業者で組織する(有)どさんこ農産センターでは、産地直売を主体とした販売の推進と消費者へのPR活動を活発に行っています。

特に、「コープさっぽろ」組合員さんとは、村の生産現場や札幌市内でお互いに定期的に交流し産地への理解や、消費者とのふれあう貴重な活動となっています。

< 農業施設・農村空間の観光活用 >



農業用ダムを活用した
ファンカヤック



カルデラ盆地という地形を
活用したパラグライダー

農業と観光は赤井川村の基幹産業

<通年型リゾート施設:キロロ>



トリビュートポートフォリオ



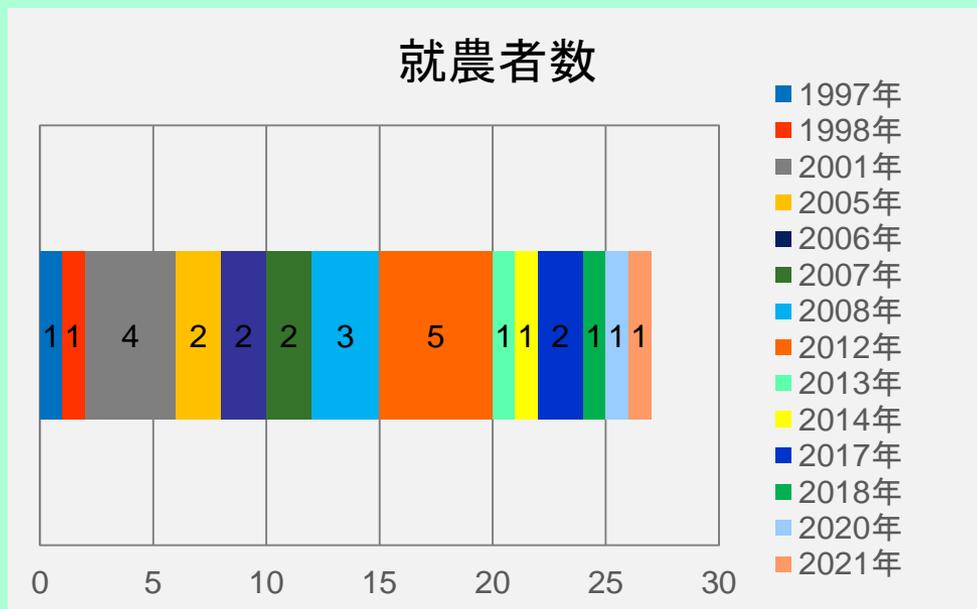
キロロスキー場

冬期間は農業者の方もキロロリゾートで働いており、
農閑期の雇用の場となっています！

8. 新規就農者の受入

3. 意欲ある担い手の育成

◆新規就農希望者受入と後継者対策



①新規就農者対策

村では、1995年度より新規就農受入支援を制度化しています。1997年から今春まで、27名が農業者として就農しました。(後継含む)



8. 新規就農者の受入

研修希望者は、北海道農業担い手育成センターを通じて受けています。

もちろん直接、村に相談頂いても結構ですが、継続して相談を希望する場合は、北海道農業担い手育成センターにも出向いて、北海道内の地域情報を収集いただいてから「赤井川村」を希望して下さい。

なお、受入時には、村産業課、農業委員会、JA、普及センターが連携しています。

8. 新規就農者の受入

■研修期間

研修形態にもよりますが基本2年間です。

①研修基本パターン(新規就農研修)

JA新おたるが研修受入先となって2年間研修します。

雇用契約により、賃金支払いあり。JA生産部会に所属。

②個人農家受入パターン(新規就農研修)

農家が直接受入、2年間指導を受ける研修です。

受入農家との雇用契約。

③自主研修パターン

所有権以外で利用する農地で3年間の自主研修。

未利用農地に限定した研修。3年間の実績により判断。

④その他

法人組織への就農(農の雇用)など。

8. 新規就農者の受入

赤井川村での研修を決定する参考情報

■農業の基本概要

当村ではかんがい排水事業により農業用水施設「落合ダム」が完成や、511haの畑地末端までパイプラインが布設されました。これにより春先から夏にかけての干ばつ時期に良質な農業用水が使用可能となり作物の生育・品質管理が容易になりました。

そのため、ビニールハウスを利用した施設栽培が盛んに行われるようになりました。

施設栽培は、広い面積を必要とする畑作に比較して、機械類の初期投資が少なく、小面積で収益を上げられることで新規就農者から高齢農家まで広く取り組み事が出来ます。

現在村内では、ミニトマト、大玉トマト、カラーピーマン、パプリカ、花卉(トルコギキョウ)、メロンなどが生産者組織を中心に栽培されています。

なお、畑作も南瓜(カボチャ)、ブロッコリー、馬鈴薯、スイートコーン、越冬キャベツなどに取り組んでいます。

8. 新規就農者の受入

赤井川村での研修を決定する参考情報

■ 農業用水を活用した農業

前述のとおり、511haの受益地に畑地かんがい施設が整備され便利な水利調整設備も整ったことから施設栽培・露地栽培ともに水管理による生育・品質管理が可能となりました。



8. 新規就農者の受入

赤井川村での研修を決定する参考情報

■どのような農業を目指すのか

研修期間中は技術修得が一番大事なことです、それ以前に起業資金(初期投資)、研修から就農までの生活費も重要です。

これらを踏まえて、自己資金を基本に関係機関の助成制度や融資制度など活用できるものを検討しながら就農をイメージしましょう。

■営農類型: 施設栽培、露地栽培、施設+露地栽培 など。

必要な設備+機械類 など = 起業費用はいくら必要?

就農までの生活費?

そのための労働力は?(どこまでなら可能か)

8. 新規就農者の受入

赤井川村での研修を決定する参考情報

■農村生活の心得

サラリーマンも同じですが、農家さん同士の「人間関係」「つながり」が大切です。

農業施設の維持管理、防除、販売組織、村内各種事業・活動の取りまとめなど、農業は自分一人では成り立ちません。地域の農業者・住民との協同作業によって成り立つものがたくさんあります。

会社でも人間関係がうまくいかないとスムーズに仕事が進まないように農業も同様です。より良い関係を築くことが、その後の自身の農業経営にプラスになります。



8. 新規就農者の受入

赤井川村での研修を決定する参考情報

■研修地として

赤井川村が自分が目指す農業と合致するか？

就農地として適地か？

他の地域とも十分比較したうえで判断してください。



■研修にあたって

希望があれば、短期(7日～10日程度)の研修もご紹介します(短期宿泊施設あり)。

また、過去に研修受入を行った農家さんや就農者の方もご紹介します。

研修受け入れ先の都合も考慮し、毎年11月頃までに研修希望の意志を示して頂きます。

8. 新規就農者の受入

赤井川村での研修を決定する参考情報

■その他

地域住民との交流

新規就農者との交流

生産者組織代表者・農業委員など地域の中心的担い手

年間の受入人数は、原則2名

農地選定については、実際に自分の目で見ると聞く・調べる

冬期間の雇用など……………

過去の研修生のなかには農業なら何とかなる？

→農業ほど知識の必要な職業はありません

こんなはずでは？

→見込みが甘く、資金・事業計画が頓挫。人のせいにする。

田舎暮らしに憧れたけど、気分は都会のまま？

→田舎なりの大変さがあります

9. 2022年度農業振興対策事業について

◆担い手育成・新規就農対策◆

○次世代農業者支援事業補助金(該当者毎に予算措置)

新規就農にあたり、研修受入農家への助成と就農開始の際の農地賃借料、借入資金の利子を助成

・新規就農研修者を受け入れた指導農家への支援費

(2年間) 600千円/年

・営農開始から5年間農地賃借料の助成 賃借料相当額

上限 畑・5千円/反 田・10千円/反

・営農開始に伴うJA資金、制度資金借入に係る利子補給

(営農開始から最長10年間)

9. 2022年度農業振興対策事業について

◆生産振興対策◆

○交配用蜜蜂導入事業＜実施主体 JA＞

花粉交配作業の省力化を図るため、蜜蜂借り上げ料に対する助成
【補助率1／3 予算額:1,055千円 蜂箱約120群】

○新規就農者育成支援特別対策事業＜実施主体 JA＞

新規就農者の初期投資軽減と経営基盤確立を図るため施設型
野菜用ハウスを導入する経費に対する助成

※就農後5年以内が対象 1名につき上限500m

【補助率1／2 予算額:2,700千円 3棟】

※当初は要望がなかったが要望があれば補正を行う

○土づくり対策事業補助金＜実施主体 JA＞

バーク堆肥・牛ふん堆肥購入に対する助成

【補助率8／10 予算額:8,000千円 購入量2,500m³】

9. 2022年度農業振興対策事業について

◆生産振興対策◆

○農業用廃プラスチック回収事業＜実施主体 JA＞

農業用廃プラスチックのリサイクル経費に対する助成

【補助率1／3 予算額456千円 処理量43t】

○農業振興センター運営事業＜実施主体 JA＞

地域振興作物等の育苗事業、各種調査・試験、新規就農研修等に要する経費を助成

【補助率 定額 予算額9,000千円】

○融雪促進対策事業＜実施主体 JA＞

早期の春耕作業を促進する融雪剤購入に対する助成

【補助率1／2 予算額1,238千円 面積150ha】

9. 2022年度農業振興対策事業について

◆生産振興対策◆

○単独基盤整備事業＜実施主体 各農家＞

軽微な土地改良事業を行う農家負担の軽減を図るため、重機運搬相当額を助成

【補助率 定額50千円 予算額 200千円】

○農業団体・部会活動支援事業＜実施主体 生産団体＞

先進地視察・販路拡大に係る生産者団体の活動に対し交通費等を助成

【補助率 定額100千円 予算額 500千円】

日本で最も美しい村連合加盟

北海道 赤井川村



the most beautiful
villages
in japan

2005年10月、赤井川村は北海道美瑛町などとともに、「日本で最も美しい村」連合を立ち上げ加盟しました。その後、全国に現在では、60の地域が加盟しています。

またのご来村を
お待ちしております